

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日。俵万智さんのベストセラー歌集『サラダ記念日』が刊行されたのは約35年前。鶏のから揚げをカレー味にしたらボーイフレンドに褒められて、その気持ちを短歌にしたいと思ったものの、鶏のから揚げでは少し重く感じたので「サラダ」に変更したそうです。

苦手意識の交流戦終了



紫陽花が色鮮やかに咲き、今年もまた梅雨入りとなりました。お元気でお過ごしでしょうか。例年より遅い梅雨入りですが、やはり雨がずっと洗濯物も乾かないし気分も沈みがちです。せめて鬱陶しい梅雨時期のなぐさめに、おしゃれな傘で街を歩くのもいいかもしれませんね。

さて、我らがカープ。

毎年カープにとって交流戦は鬼門中の鬼門。出来ることなら交流戦は回避してほしいと思っているのは私だけではないはず。5勝13敗、勝率0.278、昨季に続き最下位という結果となりました。

なぜこうも交流戦が苦手なのか。2005年に始まった交流戦。開始4年間は、パリーグ球団を分析する専属スコアラーの不足で情報戦に敗れ、成績が振るわずでした。その結果、選手やチーム全体で交流戦アレルギーを引き起こし、過度な意識や固定観念が植え付けられたと推察されます。チーム・組織・団体などの「負」の風土や伝統などはなかなか払拭できないものです…。交流戦前になると、毎年のように報道される「今年こそは！」が必要以上のプレッシャーとなり、特に打線を委縮させている感じもします。

そしてパリーグ特有のDH制度。カープは現状、助っ人野手はマクブルーム選手のみ。良い助っ人ですが、一発がありません。本来打率0.250でもそれ以下でも、ホームラン30以上打ってくれば試合は決められます。更にそれが2人いれば全く得点力が違います。DH制ならホームランバッターは3名ほど必要です。今のカープにはホームランバッターと呼べる選手はいません。それならば機動力でと思いきや、盗塁数もダントツ少ない。勝つ時は大量得点しますが、負ける時は1, 2点。機動力もホームランもなければこの結果も当然です。日頃からDHでホームランばかり狙っているチームと試合をしても勝てないわけですね。

貯金6で突入した交流戦でしたが、終わってみれば借金2。それでも3位に留まっていたのを幸運と思い、苦しかった交流戦を引きずることなく、17日のリーグ戦再開から気持ちを新たに再スタートを切ってほしいものです。



頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたをそしてカープを全力応援致します！

裏面もご覧ください。